

## 別紙様式

## 平成26年度 附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	ESD 関連推進事業
事業実施代表者名	副校長 中村 邦彦
実施附属学校名	附属札幌中学校
事業内容 (実施内容について、1,000 字程度で記述)	<p>本校では、特色化に関わる独自の取り組みとして、将来に渡ってよき世界人となるための資質となるグローバルマインドの育成に取り組んでいる。そのため、ユネスコスクールに加盟し、持続発展教育（ESD）を取り入れることで、生徒への意識化を図っている。その一貫として、中国塩城中学校、韓国梨花女子大学附属中学校と姉妹校提携を結んでいるところである。中国塩城中学校については、国際情勢の関係の悪化等により交流が難しくなってきたが、韓国梨花女子大学附属中学校とは平成24年6月に相互交流を実施し、姉妹校提携を結ぶ中で、相互対面交流事業を今後も実施していくことを確認した。交流事業は隔年で実施することとしたため、平成25年度については対面交流をもてなかったが、今年度は実施予定のため、経費を使用して、本校教諭が生徒を引率して韓国を訪問し、実りある相互対面交流を目指す。これにより、生徒だけではなく、教師の意識が高まるとともに、姉妹校との教師間交流が図られ、より円滑な交流が可能となる。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500 字程度で記述)	<p>平成26年6月に相互交流を計画していたが、4月16日におきた韓国の大型旅客船の沈没事故を受けて、韓国教育省が当面の間修学旅行を全て中止することとしたため、梨花女子大学附属中学校から今回の交流事業は見送りたい旨の申し入れがあった。そのため、今年度については相互交流を断念し、教員の意識向上とグローバルマインド及びESDに関する教育効果向上に資する研修会の参加旅費とした。さらに、研修成果は校内研修会の中で他の教員に還元した。これにより、本校教員のESDに関する意識が深まるとともに、生徒への指導内容の広がりにも効果が上がってきている。</p>
今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500 字程度で記述)	<p>平成27年1月に、韓国梨花女子大学附属中学校より、韓国側の都合による相互交流中止のお詫びとして、事前に行っていた本校生徒と梨花生徒との e-mail による交流をまとめた冊子が梨花女子大学附属中学校より送られた。この冊子と今年度の教員のESDに関わる研修効果との併用により、生徒に対してさらに効果的な教育が見込まれる。</p> <p>※添付資料として、韓国から送付された冊子の表紙を添付する。</p>
事業の公表状況	特になし

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。